

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト
<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

考えて発信し、再び考える

教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー



略歴

84年名古屋大学大学院卒
京都大学博士(経済学)。

84～89年京都大学経済研究所
助手、90～97年滋賀大学経済
学部助教授・教授。

97年～03年法政大学経営学部
教授、04年～IM研究科教授。

e-mail:

fhcdc@hosei.ac.jp

研究室は新一口坂校舎4F

明治維新を支えた薩摩藩の教育

私たちは、歴史に学ぶことができます。先人たちが試みて成功したこと、失敗したことを冷静に評価すると、私たちが直面する問題の解決策を考える手がかりになります。

磯田道史氏の『歴史の読み解き方—江戸期日本の危機管理に学ぶ』(朝日新書)には、明治維新を支えた薩摩藩士がどのような教育を受けていたかが書かれています。郷中(ごじゅう)教育と呼ばれたものです。

一般に、日本は江戸時代から識字率が高かったと言われていますが、それは全国一律に高かったわけではなく、地域差が相当大きかったようです。比較的高かったのが会津藩でした。会津藩には朱子学の伝統があり、教科書がきちんと出来上がっていて、藩士たちはそれを一生懸命覚えていました。会津では、女性の識字率も高かったそうです。

それに対して、薩摩藩では、教科書はとて薄く、議論することに時間を費やしていたと言います。誰かがある問題を提起すると、それに対して意見が出ます。その意見に対して、さらに別の人が意見を言うという形で、延々と議論を続けるというのが薩摩藩の教育方法だったそうです。明治維新という誰も経験したことのない時代の激変を押し進めたのは、教科書をしっかり覚えていた会津藩士ではなく、薩摩藩の人たちでした。

大学教育が果たしてきた役割を強化する

人口減少、高齢化、グローバル化など、学生たちは不確実性が高まっている中で生きていかなければいけません。今回のプロジェクトは、45年間続く職業生活の基礎体力をつけるのが大学教育であるという方針で進めてきました。基礎体力の重要な要素の一つが「考えて発信する」ことです。

情報技術の発達によって、インターネットを使って調べれば様々な情報が瞬時に手に入るようになりました。しかし、インターネット上を漂っている情報は玉石混淆です。玉はほんの一握りで、石ばかりと言っても過言ではありません。そういう中から玉(正しい情報)を選び出すには、選ぶ側の能力が問われます。選ぶ能力を高めるには、常に考えていることが必要です。いつも考えているからこそ、情報の真偽を判定する力が高まるのです。大学教育は、これまでも「考える」という行為を大切にしてきましたし、これからもその役割を果たしていかなければなりません。

発信する訓練も大学教育が昔から担ってきました。考えているだけでは発展がありません。考えていることを発表し、それに対して意見をもらい、さらに次を考えることが重要です。これも大学が得意としてきたことです。

不確実性にあふれている時代だからこそ、考え抜いて発信し、さらに考える能力が求められています。このプロジェクトでは、大学教育が本来持ってきた機能を大切にして、さらにその先を目指して進めたいと思います。



略歴 法政大学大学院経営学研究所キャリアデザイン専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。2011年3月、同博士課程中退。

卒業します！！

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

このたび平成26年3月末日をもちまして、法政大学を退職させていただくことになりました。法政大学では、大学院修了後も、キャリアセンターに3年間、就業力GPの特任講師として2年間と、長らくお世話になりました。その間、卒業生の結婚式にも幾度となく招いていただき、本当に多くの思い出を作ることができました。4月からは、地方にある総合大学の教員として、キャリア教育の設計と実践に携わる予定です。法政大学での学びと実践経験を活かしつつ、学生との関わりを大切にできる教員を目指したいと考えております。これまでのご支援・ご指導に心から感謝申し上げます。



略歴 70年度応義塾大学経済学部卒。70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。11年~法政大学教員

自分自身の棚卸を！！

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

年度末でこの1年を振り返り新年度に備える時期ですが、今年は消費税改訂も重なって一層慌ただしさを実感せざるをえません。そうであるからこそ、各自が自分自身の棚卸をすることに意味があると考えます。そしてそれを基に新年度の計画を固め、更にその先を見据えることが大切です。この1年、リアクションペーパー採点が12,000枚、教材DVD授業受講者2,700名、HATアセスメント受検者100名が授業での累計実績となります。学内外での実施実績がこれに加わります。我々の産学連携3Dプロジェクトも最終年度、これまでの活動をまとめる大事な1年となります。

このまとめは一区切りですが、それをベースに更なる展開を図るべく頑張る所存です。



略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

「ビデオ教材の活用法」ビデオ作成

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

ビデオ教材も今年度で6本目を制作するまでになりました。来期にも2本作成する予定なので、ビデオ教材だけで1セメスター分の講義も可能になります。次の課題として考えなければならないのは、ビデオ教材の運用ノウハウ(具体的な授業での使い方)の開発と普及です。そのため、「ビデオ教材の活用法」という教員向けのビデオを作成しました。

これはスタッフ職員からの発案で作成したのですが、私たち特任教員が授業でビデオ教材をどのように使っているかを紹介したものです。キャリアセンターの職員の方々の就職セミナーでご参考になるとと思います。私もキャリアカウンセラーの資格(GCDF-Japan)を持っておりますが、相談と教育は異なるものです。就職相談の現場の方々にも資することができれば幸いです。

◆ 企画販売店舗の事業運営インターンシップ

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクトでは、新しい形のインターンシップ/共働実習企画といたしまして、国内ファッションブランドのアウトレット商品などの販売事業の実践プログラムを実施いたします。連携18大学からメンバーが集まって、学生チームで経営する事業組織を立ち上げ、ファッションビジネスの企画・マーケティングから販売店舗の事業運営にチャレンジします。ビジネスの基本である、企画・仕入・販売・決算の一連の流れを学びます。

- ◆ **編集後記** :3月です。3月と言えば「卒業式」ですね。そして「卒業式」といえば「歌」です。卒業式の歌では「蛍の光」や「仰げば尊し」が定番だと思っているあなた。それで歳がばれます(笑)「贈る言葉」だよなっていう人もちょっと危ないです・・・ということで最近の卒業式では定番ソングだけでなく、卒業生が自分たちで歌いたい歌を選ぶところも多いようで、歌われる曲も定番からJポップのヒット曲まで多様化しているため、思い出の卒業ソングも人それぞれになっているそうです。ところで、この卒業ソングを耳にすると思わずジーンとなる人も多いのではないのでしょうか。「言葉」よりも「歌」のほうが「記憶」に定着しやすいため、当時の情景が目の前に浮かび、青春の思い出にジーンとなるのでしょう。蛇足ですが、受験勉強で「替え歌暗記法」なんていう笑える勉強法もありました。ということで本学の卒業式(学位授与式)では当然、「法政大学校歌」が歌われます。何度歌ったかわかりませんが、数々の大学時代の思い出とともにしっかり胸に刻み込んで歌ってください。社会人になるとカラオケとかでやたら「校歌」を歌う人は嫌がられますから・・・(笑) << 事務局:平山 >>

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB: <http://3dep.hosei.ac.jp/>

産学連携 **3D** 教育プロジェクト